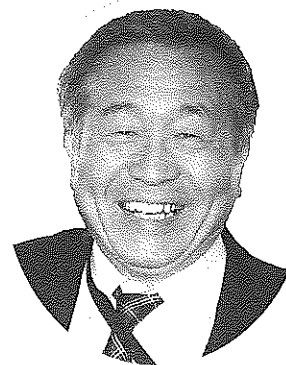


和顔愛語



佐藤 昭二

文福茶釜の世は来たり

この度の大地震において、お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

表題の「文福茶釜の世は来たり」は、ちょうど今から35年前、奈良の吉野の奥吉野に有る天川というところで修行をしていたところに教えられた言葉です。

誰から？ それは大いなるもの、と言うか、または天からと言うか…。私は、これは神示だったと思っています。なぜなら手が勝手に動き出して書き出したものだったからです。

そのとき出て来た言葉というのが、次の様なものなのです。

「文福茶釜の世は来たり、乞食が大臣に、大臣が乞食になる時が来た、それはあたかも木の葉が沈んで石が流れる如きである」と、その後が続いたのが、「あらゆる大手企業が、銀行が、病院が、学校がつぶれて行くだろう、」そして最後に、「生き残れるのは2割か…」と云う内容のものでした。

35年前に知らされたこの内容は、ちょうど高度経済成長の真ただ中にある時でしたので、自分自身でもとても信じられる事ではありませんでした。せいぜい「文福茶釜だから狸の化けの皮が剥がれる時が来たのだろう」ぐらいにしか思っていませんでした。

しかし、その後になって、あらゆる企業、銀行、病院、学校、が倒産して行くのを見た時これは、「あの時教えられた事は本当の事だ」と自覚したのです。しかし最後の「生き残れるのは2割か」と云う神示が大変気になって居たのですが、あまりにも恐ろしい事なので他人には出来るだけ話さない様にして来ましたが、数年前から親しい人、縁にふれた人にはこの話をして来しました。当会の会報ネットワークテラに2009年冬号に寄稿した「神の算盤」もこの事の一部を、形を変えて掲載したものでした。

私が25年前阿蘇の南外輪山に越して来た本当の意味はこの問題に取り組むためでした。自然界は突出を嫌います。私たちの社会生活に於いても表の権利の裏には義務が有り、陰と陽、数えれば限が無いほど表裏の

組み合わせで成り立って居りますが、全てバランスが取れて調和しているのです。今このバランスが崩れて来ているのです。これが突出です。私たちは表の便利さを享受する時、裏の陰の働きを知らねばなりません。御陰様とはまさにこの事です。

例えば科学の世界においても大変な進歩です、しかし自然の摂理の中で科学を捉えようとする心が追いついていけない状態にあることが問題なのです。目覚しい進歩という技術一辺倒の表の突出が続いた時、自然界はこれを嫌い自然の摂理の中で是正し始めます。

大自然界そのものを神というのなら、まさに神は調和を保つために突出したものを「ご破算で願いました…」という段階に入ったといえます。今回の大震災で被災された方々の苦難や悲しみは彼らだけのものではなく、被災を受けることのなかった私たちに対する戒めであり、私たちに原因があったものを私たちの代わりに受けていただいたのだと気付かなければなりません。

私たちの身体は大自然つまり大宇宙と同じ営みで連動しています。海辺に打ち寄せる波の数は、1分間におよそ18です。18の2倍の数は36で、これはおよそ人間の体温です。36の2倍の数は72で、これはおよそ人間の脈拍数です。72の2倍の数は144で、これは少し高めですが人間の血圧に近い値です。144の2倍の数は288で、これはおよそ赤ちゃんがお腹にいる日数です。このことも関係はないとは思えません。だから、私たちの身体は小宇宙であり、社会も小宇宙であるといえます。したがって大宇宙のリズムから逸脱した時、個人で有れば身体に、複数で有れば家庭に、団体に有れば社会に、そして国にと知らせが出て来ます。これは知識では解決できません。大自然界からの智恵でなければ解決しないのです。私たちは、この大宇宙である大自然界に合わせた「心の学び」をする時が来たのです。

私達がこの自然界の法則を受けて明日に向かう時こそこの震災で亡くなった方達へのご供養が届く時と思います。

合掌。